

# ディズニー化する地方自治

## —「マンガ王国とっとり」の研究—

Disneyzation and local government  
—A Study of Comic Kingdom Tottori—

小谷 敏

Satoshi Kotani

大妻女子大学人間関係学部

Faculty of Human Relations, Otsuma Women's University

キーワード : ディズニーゼーション, ディズニーフィケーション, マンガ王国鳥取

Key words : Dizneyzation, Dizneyfication, Comic Kingdom Tottori

### 1. 研究目的

本研究は、地元出身のマンガ家を資源としての地域振興がもつ可能性と問題点を明らかにすることを目的とする研究の一貫をなすものである。昨年度は本資金の援助を受けながら、鳥取県、高知県、新潟市を訪ね、主として行政の関係者への聞き取り調査を行った。明らかになったことは、いずれの自治体もマンガを核とした一つのテーマパークとして、それぞれの地域を全国にアピールしようとしていることである。社会学者たちは、ディズニーテーマパークが、今日のビジネスや社会組織のあり方に大きな影響を与えていると述べている。県内二つの空港を「米子鬼太郎空港」・「鳥取砂丘コナン空港」と改称し、2012年には「マンガ王国とっとり」を建国している。その「建国」記念式典において知事が「女王」たるアイドルにかしづいた鳥取県は、「ディズニー化」の先端を行っている。本研究においては、ディズニー化が地方自治に与える影響について考察してみたい。

### 2. 研究内容及び成果

#### ① 「マンガ王国とっとり」の建国

「マンガ王国とっとり」の「建国」のプロセスには興味深いものがある。

2013年に鳥取県一円を舞台として開催された「国際マンガ博」にさしたる議論も経ぬまま、財政規模の小さい鳥取県としては異例の10億円の巨費を投じられていった。水木しげる、青山剛昌、谷口ジローという同県の生んだ偉大なマンガ家を

ポスターに配し、県内各地で半年間にわたって数多のマンガに関わるイベントを開催するというのが同博の趣旨であった。そして平井知事は同年に「マンガ王国とっとり」の建国を宣言している。3人の巨匠を押し立てながら、マンガを地域資源として観光客を同県に誘致し、さらにはマンガに関わるコンテンツ産業を誘致し、さらには鳥取県にマンガ文化を根づかせることを鳥取県は「建国」の趣旨として打ち出している。さらには同じく著名マンガ家を多数輩出した高知県との間に鳥取県は「通商友好条約」をむすんでいる。

これに対する県民の反応は微妙なものであった。マンガ博それじたいにも、マンガを地域資源として活用することにも表立って反対する理由はない。しかし、鳥取県は水木、青山、谷口の他にも多数の有名マンガ家を生んでいるが、たとえば昭和20年代から地元新聞社がマンガコンクールを開催し、20年以上にわたって「マンガ甲子園」を開催している高知県のようにマンガを描く文化が根付いているわけではない。しかも地域対立の感情の根強い鳥取県では、鳥取県の水木、青山、谷口ではなく、県西部地方の水木、同中部地方の青山、同じく東部地方の谷口という認識だったのである。表立った反対はみられなかったものの県民の関心は低調であったことは否めない。

#### ② 不透明な「国際マンガ博」

同様の戸惑いはマスコミや県議会にもみられる。これは報告者の行った新聞論調の分析と鳥取県議会会議事録の分析、さらに複数の鳥取県議への分析

によっても浮かび上がっている。

地元紙（日本海新聞、山陰中央新報）の論調も概ねマンガ博にもマンガ王国建国にも好意的ではあった。しかし、マスコミ報道は、マンガ博とマンガ王国建国の必然性の薄さを指摘し続けてきた。

また鳥取県議会も「マンガ王国推進議連」が生まれるなど、平井知事の構想を後押しする空気があった。しかし党派を問わず平井知事の姿勢に不満を抱く部分もあった。

たとえば共産党の議員団が批判したのは、福祉予算を削減し続ける平井知事が、一つの文化イベントに 10 億もの巨費を投じたことであった。

また平井知事のスタンドプレーとみまがう行動には一般の県民からさえ批判が集まった。同知事はトリンドル玲奈をマンガ王国の「女王」に指名し、マンガ王国の建国式典で彼女にかしずいてみせた。それが知事にあるまじき行為という批判を招いたのである。

国際マンガ博は 2013 年の 10 月に閉幕した。公式報告では 300 万人を超える県内外の観衆が同博を訪れたとされている。しかしこれは水木しげるロードや鳥取砂丘への入れ込み客数をもカウントしたものであり、正確なものとはいえない。同県の監査委員会は、こうした不透明な観客動員の把握をはじめとしていくつかの問題を指摘している。「マンガ王国とっとり」の建国イベントとしての「国際マンガ博」には終始不透明な部分がつきまわっている。

### ③ 鳥取県におけるディズニー化の二つの次元

#### i ディズニーゼーションの次元

「ディズニー化」の概念を提唱したアラン・ブライマンは、ディズニー化にはディズニーゼーションとディズニーフィケーションという二つの次元があると主張している。ディズニー化とは、ものにイメージのコーティングをすることで付加価値を加えた数多のキャラクターグッズを販売する「マーチャンダイジング商法」と、客に長時間滞在させる限り多額の出費をさせるテーマ性を帯びた複合商業施設、さらにはそのなかで展開されるパフォーマティブ労働等を柱とする新たなビジネスモデルである。

鳥取県は鳥取市にある鳥取空港を「鳥取砂丘コナン空港」と改称した。これは米子鬼太郎空港、

境港市の水木しげるロード、さらには東伯郡北栄町の「青山剛昌ふるさと館」とともに、鳥取県をマンガのテーマパークとする試みといえよう。平井知事は、スターバックスコーヒーが鳥取県にだけないことを逆手にとった「スタバはないが砂場はある」等の名言でも知られている。往時の東国原宮崎県知事をも彷彿とさせるパフォーマンスによって名を馳せた平井知事は、鳥取県というマンガのテーマパークのなかでパフォーマティブ労働にいそしんでいるといえなくもない。

#### ii ディズニーフィケーションの次元

伝統的なディズニー批判として、西部開拓やアフリカ探検のような歴史の暗部を捨象して、ディズニーランドやディズニーアニメが無害化されたきれいごとの歴史像を子どもたちに与え続けてきたというものがある。こうしたディズニーによる歴史像の歪曲をブライマンは「ディズニーフィケーション」と呼んでいる。

米子市と境港市とを結ぶ JR 境港線は、起点の米子駅が「ねずみ男駅」、終点の境港駅が「鬼太郎駅」と名乗っている。その間のすべての駅に「ゲゲゲの鬼太郎」にちなんだ名称がついている。境港線には鬼太郎のラッピング列車が走る。そして米子空港は先にもみたとおり「米子鬼太郎空港」と名乗っている。そして同空港に就航する全日空は鬼太郎のラッピングジェットを飛ばしている。

民間の交通機関だけではない。境港市では住民票のすかしに鬼太郎の絵が使われている。米子空港（航空自衛隊美保基地）に駐留するジェット戦闘機にも鬼太郎のラッピングが施されたことがあった。境港市の鬼太郎ロードには、「鬼太郎交番」が置かれている。

知事という鳥取県の最高権力者が、アイドルタレントにかしずいてみせる。境港市の市民であることを証する書類に鬼太郎の絵が描かれている。マックスウェーバーはかつて国家とは暴力の正統的な独占であると説いた。国家による暴力の独占を象徴する存在である警察と自衛隊が、マンガの世界の住人であり、無力で無害な存在であるかのように装っているのである。

ブライマンは素材から毒を抜き去り、無害化された子どもだましの代物に変えてしまうディズニー流のトリックをディズニーフィケーションの名で呼んだ。全県をマンガのテーマパークとすることを志向した鳥取県においては、権力を無害なも

のみにせるという意味でのディズニーフィクションが進行している。

また「国際マンガ博」をめぐる県議会の論戦に膨大な県費が費消されたにもかかわらず真剣な討議が行われたという印象は受けなかった。マンガという素材，しかも同県出身の著名人たちが絡む事業ということもあり腰が引けた印象は否めない。マンガという素材を前に県議会の論戦までもが、「ディズニーファイ」されてしまったのである。

### 3. まとめと今後の課題

本研究においては，鳥取県という地方自治体が，マンガを地域資源として活用しようとした結果として，二重の意味でのディズニー化に陥ってしまったことを明らかにした。今日の日本でポピュラー文化はきわめて大きな影響力をもっている。そのために地方政治のみならず国政の次元においてさえ，テレビ映りを第一義とするパフォーマンスの場と化している傾向は否定できない。その兆候

はすでに 2000 年代初頭の小泉純一郎首相の「ワンフレーズポリティクス」において顕著であった。また刺激的な言辞を弄することで人気を集めた橋下徹前大阪知事などもその系譜に連なる政治家といえる。議論よりもパフォーマンス。政治のディズニー化論の射程は国政にまでおよぶと言いうる。

今後の課題として二つの方向性を考えることができる。一つは政治という領域でのディズニーゼーションについての考察を深化させることである。もう一つは，マンガを用いて地域振興という課題にとりくんでいる地方自治体を鳥取県以外にも広く調査対象とした研究を展開することである。

### 4. この助成による発表論文等

#### ① 雑誌論文

本研究の成果を本学人間関係学部紀要等のジャーナルに投稿し，研究を蓄積させてやがては単行本としての公刊を目指している。

(2016 年 3 月 31 日現在)